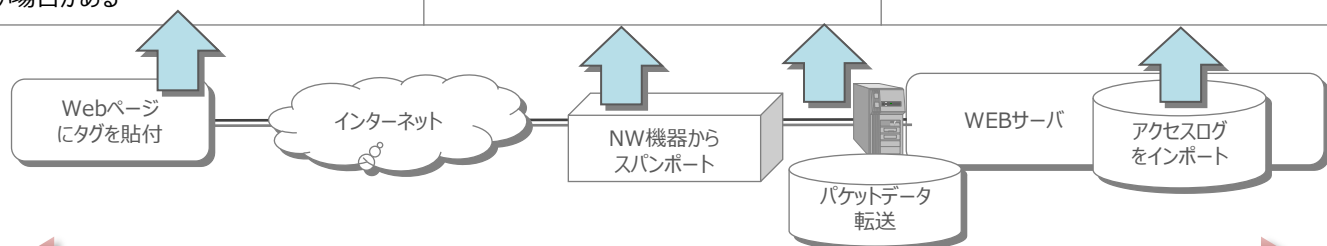


ハイブリッド型

タグ（ビーコン）型	パケットキャプチャ型	Webサーバ型
- 小規模であれば始めやすい - サーバリクエストがない動作（キャッシュ等）も捕捉可能	HTMLソースを編集する必要がない／PDFやクローラーなどタグでは捕捉困難なデータ収集に向いている／設置後のメンテナンス性が高い（Webコンテンツの改変によるデータ収集の影響を受けづらい）	
	リアルタイム／大量データの処理に強い	過去データのさかのぼりが可能
- サイトが増えるとタグ管理負荷が重い - SaaSサービスによる利用が前提→利用にデータの外部保存を伴う - PDFダウンロードなど一部の動作の捕捉が困難 - 社内サイトのデータ収集の手段として適さない場合がある	サーバリクエストのない動作は捕捉出来ない／オンプレミスとして提供	
	- NWの知識を要する - クラウドを利用している際にはNW機器経由ではなくソフトウェア的な手法でアクセスデータを収集する仕組みが必要	- 生ログを元にデータ処理するため解析内容がログに含む情報量に限定される - バッチ処理のためリアルタイム性に欠ける



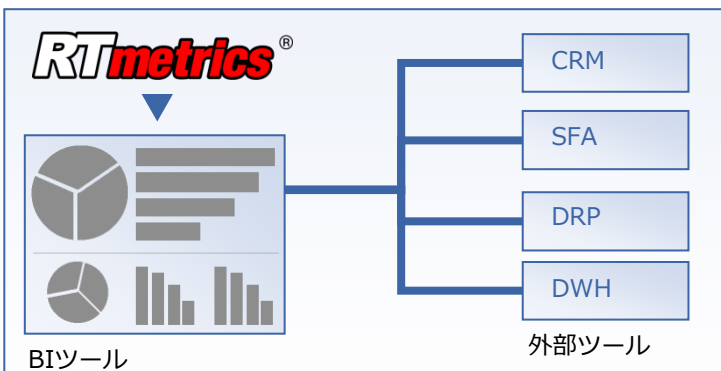
RTmetricsはすべての方式に対応

標準レポートとカスタマイズレポート



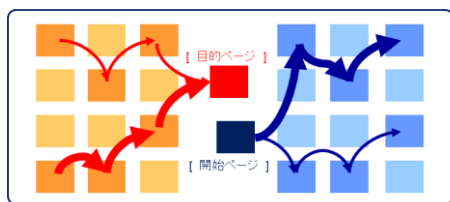
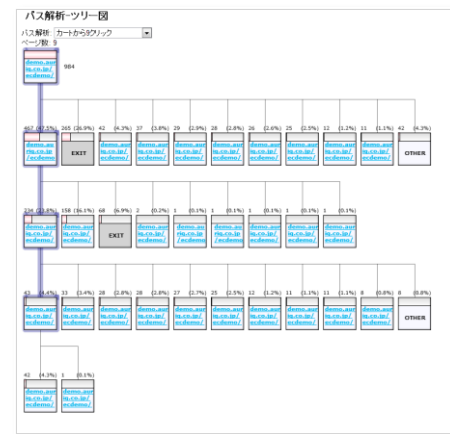
- 多様な分析項目を詳細かつ、見やすくレポート化
- 多彩なフィルタを活用し、自在にセグメンテーションが可能（要オプションDB）
- 広告とメルマガの集客、CV効果を一覧で比較・評価し、戦略的なレポートを生成
- ディレクトリや商品数が膨大なサイトも、任意の粒度でレポートが可能
- ダッシュボードを活用し、担当者や協力会社ごとに、見せるレポートを絞って、自動的に生成

データを蓄積し、外部システムと連携することで広がるカスタマイズ性



- 会員の購入履歴データと紐付けロイヤリティを向上
- 顧客の居住地区データと複合させ、地域特性を把握
- 売上げデータと複合させて、より戦略的なレポートを生成
- データベースに登録されている商品名、価格と紐付け
- リッチコンテンツの視聴率を把握
- RSSでの登録、閲覧状況、効果測定を把握
- ロボット・クローラーなどの来訪頻度、閲覧状況を把握

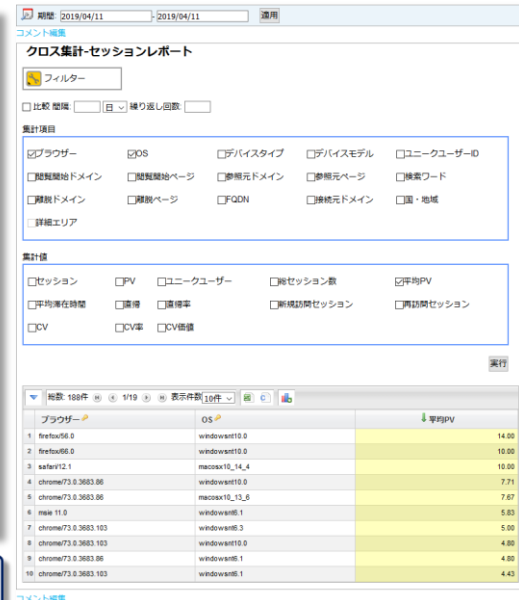
製品に標準で搭載されているレポートの一例になります。



パス解析 (ツリー図)



ROI解析 (ファネル)

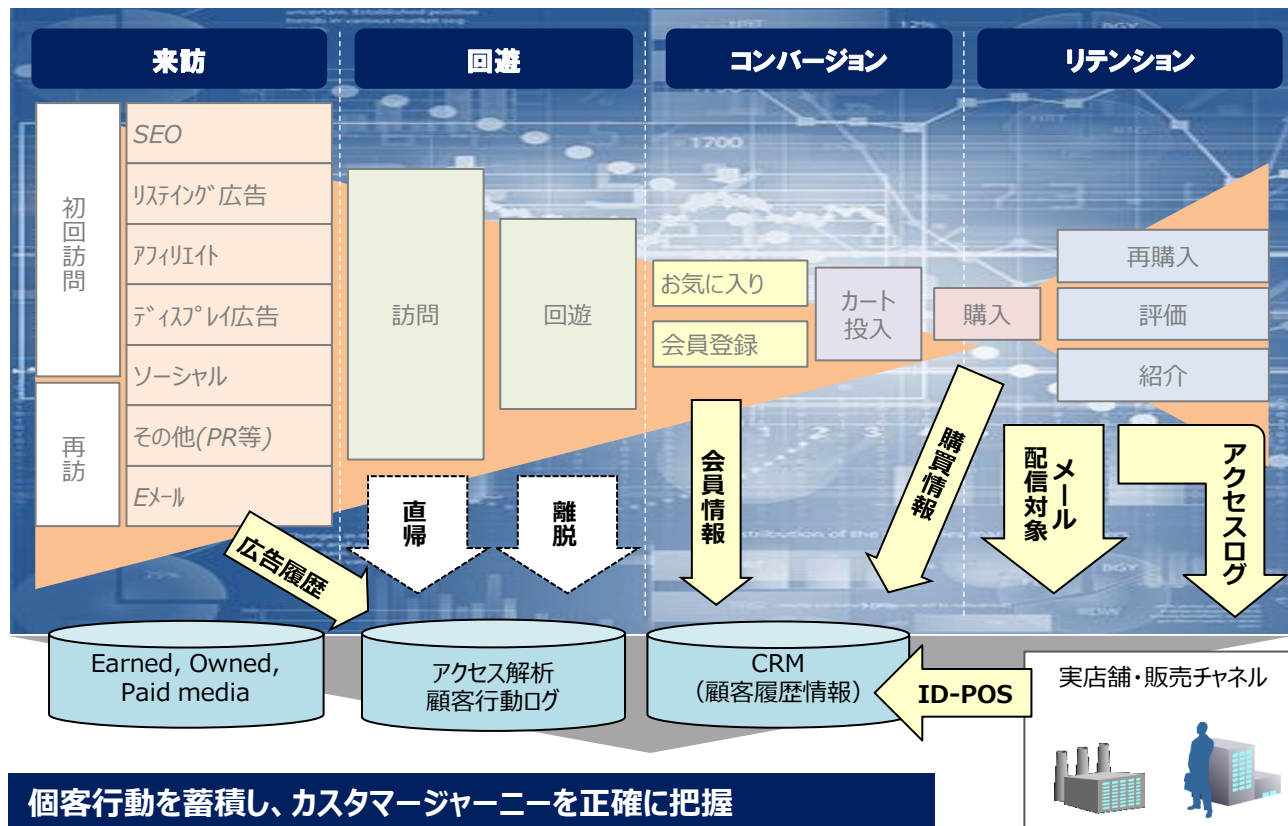


見たい項目や集計軸を自由に指定し、アドホックに結果を確認し、さまざまな分析に活用

クロス集計

分析データの拡張利用

Webの訪問者の行動を詳細に記録、アクセス解析データを企業が保有する他システムのデータと統合することにより、マーケティング活動に役立つ価値あるインサイトを提供します。



個客行動を蓄積し、カスタマージャーニーを正確に把握

